

フォスタリングチェンジ・プログラム

| 1

無憂樹 2022 年度実施報告書

発行 一般社団法人無憂樹

【開催報告】第 12 回 FCP ファシリテーター養成講座

1 開催期間：2022年8月22日（月）～8月25日（木）

2 開催方法：オンライン（Zoom）

3 出席者：

・松崎佳子先生（福岡市子ども家庭支援センター「SOS子どもの村」センター長・広島国際大学特任教授）

| 2

- ・上鹿渡和宏先生（早稲田大学人間科学学術院教授・児童精神科医）
- ・佐野多恵子先生（NPO法人 静岡市里親家庭支援）
- ・長田淳子先生（社会福祉法人 二葉保育園二葉乳児院 二葉・子ども里親サポートステーション 副院長）
- ・山川浩徳先生（社会福祉法人慈愛園 慈愛園乳児ホーム 養育家庭支援センターきらきら）
- ・上村宏樹先生（一般社団法人 無憂樹）

他、事務局より 松田咲子

参加者：12府県より19機関、22名の参加

4 内容:

- ①グループの立ち上げ、子どもの行動の理解と記録
- ②行動に影響すること、先行する出来事と結果
- ③効果的に褒める事
- ④肯定的な注目
- ⑤自分で感情をコントロールするためのコミュニケーションスキル
- ⑥子どもの学習を支える
- ⑦ご褒美とご褒美表
- ⑧指示を与えること、選択的に無視すること
- ⑨肯定的なしつけと限界設定
- ⑩タイムアウトと問題解決のための方法
- ⑪まとめ
- ⑫今後について、養育者自身のケア

5 まとめ：

フォスタリングチェンジ・ジャパンは、フォスタリングチェンジ・プログラム（FCP）通常版を実施するファシリテーターの育成を行っており、ファシリテーターになるためのトレーニングとして、4日間の養成講座を開催しています。

第12回目となる今回のファシリテーター養成講座も、オンラインで開催いたしました。全参加者が4日間のトレーニングを修了され、12府県（青森・岩手・新潟・山梨・三重・大阪・和歌山・岡山・広島・福岡・佐賀・熊本）から19機関、新たに計22名のファシリテーターが誕生いたしました。

来年度は、オンラインから対面での講座に戻れることを期待し、今後も引き続き、ファシリテーター養成講座を開催していきます。

【開催報告】第13回 FCP ファシリテーター養成講座

1 開催期間：2023年2月6日（月）～2月9日（木）

2 開催方法：対面（東京：日本財団ビル）

3 出席者：

・松崎佳子先生（福岡市子ども家庭支援センター「SOS子どもの村」センター長・広島国際大学特任教授）

・上鹿渡和宏先生（早稲田大学人間科学学術院教授・児童精神科医）

・佐野多恵子先生（NPO法人 静岡市里親家庭支援）

・長田淳子先生（社会福祉法人 二葉保育園二葉乳児院 二葉・子ども里親サポートステーション 副院長）

・山川浩徳先生（社会福祉法人慈愛園 慈愛園乳児ホーム 養育家庭支援センターきらきら）

・上村宏樹先生（一般社団法人 無憂樹）

他、事務局より松田咲子

参加者：9府県より11機関、16名の参加

4 内容:

前回と同じ

5 まとめ：

フォスタリングチェンジ・ジャパンは、フォスタリングチェンジ・プログラム（FCP）通常版を実施するファシリテーターの育成を行っており、ファシリテーターになるためのトレーニングとして、4日間の養成講座を開催しています。

第13回目となる今回のファシリテーター養成講座は、これまでコロナの影響を受けオンラインでの講座が続いておりましたが、2020年3月に東京で開催した養成講座以来の対面での開催となりました。

全参加者が4日間のトレーニングを無事に修了され、9府県（茨城・栃木・東京・神奈川・長野・三重・滋賀・京都・大分）から11機関、新たに計16名のファシリテーターが誕生いたしました。

来年度からは、オンラインから対面の講座に戻れることを期待したいところではありますが、オンラインの良さも考慮し、対面とオンラインを交えた「ハイブリッド式」での講座を試みていく予定です。

今後も、継続していけるようファシリテーター養成講座を開催していきます。

【開催報告】第14回 FCP ファシリテーター養成講座

1 開催期間：2023年7月3日(月),4日(火),10日(月),11日(火),

2 開催方法：対面（東京:日本財団）x2日間 オンライン（ZOOM）x2日間

3 出席者：

- ・松崎佳子先生（福岡市子ども家庭支援センター「SOS 子どもの村」センター長・広島国際大学特任教授）
 - ・上鹿渡和宏先生（早稲田大学人間科学学術院教授・児童精神科医）
 - ・佐野多恵子先生（NPO 法人 静岡市里親家庭支援）
 - ・長田淳子先生（社会福祉法人 二葉保育園二葉乳児院 二葉・子ども里親サポートステーション 副院長）
 - ・山川浩徳先生（社会福祉法人慈愛園 慈愛園乳児ホーム 養育家庭支援センターきらきら）
 - ・上村宏樹先生（一般社団法人 無憂樹）
- 他、事務局より 松田咲子

参加者：10 府県より 16 機関、20 名の参加

4 内容:

前回と同じ

5 まとめ：

フォスタリングチェンジ・ジャパンは、フォスタリングチェンジ・プログラム（FCP）通常版を実施するファシリテーターの育成を行っており、ファシリテーターになるためのトレーニングとして、4 日間の養成講座を開催しています。

第 14 回目となる今回のファシリテーター養成講座は、前回、コロナに対して緩和状況でもあったことから、3 年振りに東京で対面での開催を行いました。また不安や遠方からの参加者の心境も考慮し、対面とオンラインの両方での形式を試みた開催となりました。

全参加者が対面とオンラインのハイブリット式での 4 日間のトレーニングを無事に修了され、10 府県（・岩手・東京・山梨・神奈川・京都・広島・高知・福岡・熊本・沖縄）から 16 機関、新たに計 20 名のファシリテーターが誕生いたしました。

今回のハイブリット形式は、参加者からも評価が良く、次回から、全対面での講座に戻れることを期待したいしつつ、しばらくは対面とオンラインを交えた、この「ハイブリッド式」での講座で開催していく予定です。

今後も、継続していけるようファシリテーター養成講座を開催し、ファシリテーターを事務局としてサポートし続けていきたいと思っております。

【開催報告】第 15 回 FCP ファシリテーター養成講座

1 開催期間：2023 年 9 月 4 日(月),5 日(火),13 日(木),14 日(金),

2 開催方法：オンライン（Zoom）

3 出席者：

・松崎佳子先生（福岡市子ども家庭支援センター「SOS 子どもの村」センター長・広島国際大学特任教授）

・上鹿渡和宏先生（早稲田大学人間科学学術院教授・児童精神科医）

・佐野多恵子先生（NPO 法人 静岡市里親家庭支援）

・長田淳子先生（社会福祉法人 二葉保育園二葉乳児院 二葉・子ども里親サポートステーション）⁵ 副院長）

・山川浩徳先生（社会福祉法人慈愛園 慈愛園乳児ホーム 養育家庭支援センターきらきら）

・上村宏樹先生（一般社団法人 無憂樹）

他、事務局より 松田咲子

参加者：長野県より 17 機関、18 名の参加

4 内容:

前回と同じ

5 まとめ:

フォスタリングチェンジ・ジャパンは、フォスタリングチェンジ・プログラム（FCP）通常版を実施するファシリテーターの育成を行っており、ファシリテーターになるためのトレーニングとして、4 日間の養成講座を開催しています。

第 15 回目となる今回のファシリテーター養成講座は、長野県から依頼を受け開催する運びとなりました。再受講 1 名を含む、全参加者が、4 日間のトレーニングを無事に修了され、新たに計 17 名のファシリテーターが誕生いたしました。

今回のように、県からの依頼を受けての開催は初めての試みとなりましたが、受講者にとっては、県が参加費を負担してくれる面は大変大きく、また、参加者同士の横の繋がりを深めることにもなり、今後、FCP を実施するにあたって統制が取り易くなるのではないかと思慮します。

また、今回の開催は県依頼のモデリングとして大きな成果になったと言える。

今後、このような取り組みが全国的にも広まって行けるよう、FCP 事務局として発信しつつ、引き続きファシリテーターのサポートをしていきたい。

【開催報告】第 1 回 FCP ファシリテーター(12+思春期版) 養成講座

1 開催期間：2022 年 3 月 15 日（水）

時間：9 時～17 時

2 開催方法：オンライン（Zoom）

3 出席者：

○トレーナー・SV

・松崎佳子先生（福岡市子ども家庭支援センター「SOS 子どもの村」センター長・広島国際大学特任教授）

・山川浩徳先生（社会福祉法人慈愛園 慈愛園乳児ホーム 養育家庭支援センターきらきら）

・上村宏樹先生（一般社団法人 無憂樹）

他、事務局より松田咲子

| 6

○参加者：16名 12機関 7都道府県

4 内容:

- ①砕かれた社会通念 Myth busting
- ②発達の段階
- ③リスクとレジリエンス（弾力性・回復力）
- ④ニーズと行動
- ⑤メンタルヘルス
- ⑥伝え返しによる傾聴（Reflective listening）
- ⑦一対一の時間 One on one time
- ⑧教育
- ⑨「I（私は...）」メッセージ
- ⑩問題解決

5 まとめ

フォスタリングチェンジ・ジャパンは、フォスタリングチェンジ・プログラム12+（FCP 思春期版）通常版を実施するファシリテーターの育成を行っており、ファシリテーターになるためのトレーニングとして、1日間の養成講座を開催しています。

第4回目となる今回のファシリテーター養成講座は、オンラインで開催いたしました。全参加者が1日間のトレーニングを修了され、7都道府県（栃木・山梨・神奈川・広島・長崎・佐賀・熊本）に新たに計16名のファシリテーターが誕生いたしました。

来年度も引き続き、ファシリテーター(12+思春期版)養成講座を開催してまいります。

2022年度 第1回ファシリテーターフォローアップミーティング

報告書

1. 開催日時 2022年6月14日（月）9:30-16:00
2. 開催方法 オンライン（Zoom）
3. 出席者

- a) スーパーバイザー：
松崎佳子先生（福岡市子ども家庭支援センター「SOS 子どもの村」センター長・広島国際大学特任教授）
上鹿渡和宏先生（早稲田大学人間科学学術院教授・児童精神科医）
- b) 運営：一般社団法人無憂樹 上村宏樹、松田咲子
- c) 参加者：ファシリテーター13名（6機関）

4. 内容

- 1) あいさつ(自己紹介)
- 2) 実施報告
- 3) 進捗状況報告
- 4) 質疑応答
- 5) 事務局連絡・その他 閉会

5. まとめ

これまでに開催された、第1回養成講座から第11回養成講座までの参加者数は200名を超えており、その中から今回は、6都府県より13名のファシリテーターが参加されました。

・実践報告が（栃木、広島）の2県、・状況報告が（新潟、富山、三重、京都）の4都府県でした。

前回の4月の開催に比べ、参加機関が少なかったのだが1機関の発表の時間を十分に取ることができ、質問・相談に対して深く掘り下げることが出来た。また様々な経験や意見が交換され、互いに良い影響を与えあえる講座となった。

ここ1年は、コロナ禍でのFCP実践の難しさを上げた相談が多い傾向にあったが、最近では、実施にあたりコロナ対策の情報交換が各講座やFCP年次報告書等で出来ており、知恵を絞って開催されている様子が伺えた。また、今回も前回と同様、里親の参加者を確保する難しさを議論し、県の委託事業として関わっていく方法や児童相談所との連携などが注目された。このように、様々な困難に直面する中でも、FCP体験版の実施の手ごたえを感じている機関は多く見受けられ、なにより里親とのコミュニケーションの場が増えることの重要性を実感出来たことは最大の成果だったと論じ、ファシリテーターのモチベーションを向上させた。

コロナ禍で様々な心理的不安要素を抱えながらも、ファシリテーターが前向きにFCP実施に取り掛かっていく姿は、とても力強さを感じるものであった。今後のFCP実施が安心して行われて行けるよう、事務局からもサポートできればと思料する。

ご参加者から事後のアンケートでご回答いただいたコメントを一部、以下に紹介する。

- 皆さまと話ができて、情報を共有することができました。（プログラムに対する思いも）気持ちも新たに、これからも里親さんに寄り添ったサポートしていきたいと思ひます。
- 他機関の取り組みが、具体的であり、とても身近に感じた。近く身近に感じたことで、次年度の実施につなげるための自信に繋がった。
- 発表ができたこと。皆さんの評価をいただいたこと。機関の連携と守秘義務に関しての疑問に回答していただいたこと。里親支援に関しては、子どもの支援と同様正解はない事、疑問を支援者で共有し、里親に寄り添いながら考え続けていくことが大切と改めて感じたこと。ストップ・プラン&ゴー FCP のプログラムの凄さを感じられたことです。そして、まだまだ勉強不足の自分にも改めて気づきました。
- 定期的にこのような研修があると、「やらなければいけない」「やってみてよかった」とモチベーションがあがります。実践してみても新たな悩みや改善すべき点等も共有できると思ひました

今後も引き続き、学びの共有の場と、また、FCP を実践する仲間同士のエンパワメントの場として、フォローアップミーティングの運営を継続していきたい。 以上

2022 年度 第 2 回ファシリテーターフォローアップミーティング 報告書

1. 開催日時 2022 年 10 月 3 日（月）9:30-16:00
2. 開催方法 オンライン（Zoom）
3. 出席者
 - a) スーパーバイザー：
松崎佳子先生（福岡市子ども家庭支援センター「SOS 子どもの村」センター長・広島国際大学特任教授）
上鹿渡和宏先生（早稲田大学人間科学学術院教授・児童精神科医）
 - b) 運営：一般社団法人無憂樹 上村宏樹、松田咲子
 - c) 参加者：ファシリテーター6 名（4 機関）
4. 内容
 - 1) あいさつ(自己紹介)
 - 2) 実施報告

- 3) 進捗状況報告
- 4) 質疑応答
- 5) 事務局連絡・その他 閉会

5. まとめ

これまでに開催された、第1回養成講座から第12回養成講座までの参加者数は200名を超えており、その中から今回は、4県より6名のファシリテーターが参加されました。

・実践報告が（高知）の1県、・状況報告が（神奈川、熊本、長崎）の3県でした。

今回は、参加機関が少なく開催を危ぶまれていたが各機関での実施状況、進捗状況を共有することで、今後のFCPプログラム全体の向上に繋がることを重要とし開催を実行する運びとなった。

今回の内容としては、里親の参加者を確保するにあたり最少参加人数について議論された。ここ2年半は、コロナ渦の中での開催となっており、募集には苦戦する機関がこれまでもあったが、今回参加人数が4名での開催を実行した機関でのデメリットとメリットを題材に、各機関の経験を踏まえて多くの意見が上がった。特に、開催中に起こるや無負えない欠席に対するファシリテーターのフォローとサポートが、いかに今後のチーム全体に影響を与えるものであるか、また様々な工夫と対応力が大切だとした。

少人数での開催は、これまでも知恵を絞って開催されている様子が伺えているが、今回のようにリアルな数字で議論が出来たことは、他機関がどのようなフォローをしているかが共有できると共に、ファシリテーターの意識を高める良い機会となった。また、なにより里親さんが正しく理解をし実践できているかが重要であるとし、再認識できた様子だった。

その他、熊本県ではフォスタリング機関が3つあり、それぞれが協力的に連携をとって活動しており、将来的に委託率が上がっていくことが期待出来るよい事例となった。

今後は、コロナによる対策も緩和され、対面による講座の再開やFCPを実施するにあたって様々な縛りが軽減されいくと思われる、ファシリテーターのこれまでの経験が活かされる為にも、事務局からの更なるサポートを思料する。

ご参加者から事後のアンケートでご回答いただいたコメントを一部、以下に紹介する。

●お忙しい中、お時間をいただきありがとうございました。フォスタリング機関は里親委託の方向を見ているが、他の施設は現在施設で生活をしている子どもを見ているため、里親委託へ

向けての温度差が大きい。国として委託は進んでいるが、県によっても違うため、どう埋めていくのが課題。

●実践していく中で難しい点もいろいろと起こってくると思うが、そのためにプログラムを変えるのではなく、何が大切なのか、どんな方法がとれるのか、ということを考えていくことが大切だと思った。またいろいろな方に相談もしながら、毎年実施できるように取り組んでいきたい。

ありがとうございました。

●参加人数は少なかったが深い話が聞けた

●他機関の動きを直に確認できたこと。FCP以外のことであるが社会的養育の動きについてお話を聴くことができたこと。ZOOMではあっても、仲間の存在を感じ取ることが出来た事。

今後も引き続き、ファシリテーターの学びの場と、FCPの向上の為にフォローアップミーティングの運営を継続していきたい。以上

2022年度 第3回ファシリテーターフォローアップミーティング 報告書

1. 開催日時 2022年11月22日(火) 9:30-16:00
2. 開催方法 オンライン (Zoom)
3. 出席者
 - a) スーパーバイザー：
松崎佳子先生（福岡市子ども家庭支援センター「SOS子どもの村」センター長・広島国際大学特任教授）
上鹿渡和宏先生（早稲田大学人間科学学術院教授・児童精神科医）
 - b) 運営：一般社団法人無憂樹 上村宏樹、松田咲子
 - c) 参加者：ファシリテーター18名（9機関）
4. 内容
 - 1) あいさつ(自己紹介)
 - 2) 実施報告
 - 3) 状況報告
 - 4) 質疑応答
 - 5) 事務局連絡・その他 閉会

5. まとめ

これまでに開催された、第1回養成講座から第12回養成講座までの参加者の中より、今回は、8都府県9機関、18名のファシリテーターが参加されました。

・実践報告が（青森、東京、大阪、広島）の4県、・状況報告が（千葉、東京、神奈川、京都、山口）の5県でした。

今回の内容としては、欠席者が出た場合の対応について各機関が工夫されていることや、その後の里親さんの理解度についてなどの課題があがった。コロナが収束しない状況において、小規模の地域だと参加人数が少ないうえに欠席者が出てしまう事例は少なくない。今回、欠席者に対し同時進行でオンラインでの参加を試みた機関があった、その事例は、とても参考になった様子だった、しかしその半面、課題や工夫が必要な点などもあり、今後、改善した上でオンラインでの参加も視野にいれて行ければという評価になった。また、参加者の理解度については、「里親さんが理解ができてるかどうか」というよりも、里親さんが自由に発言ができ考えていける「グループの場」を作っていくことが大切であるとし、ファシリテーターの観察力や受け取り方のスケール、そしてフォローとサポートが重要であるとした。

前回までは、今後コロナは収束していく考えであったが、なかなか収束していく様子がない、その為FCP実施において今後も様々な対策と工夫が必要であると思われる。これまでのファシリテーターの経験や工夫が活かされる状況が続く事となると思う。そんな中で事務局としてもこのフォローアップミーティングで得た情報を提供できるよう更にサポートを思料する。

◇ご参加者から事後のアンケートでご回答いただいたコメントを一部、以下に紹介する。

●他機関の実践、アドバイザーの先生方からの助言を聞いて、とても貴重な経験でした。工夫などを知ることができたので、柔軟に取り入れていきたいなと思いました。

●「ありがとう」の言葉の取り扱いについて回答を得られたので良かった。説明に納得がいきました。もやもやしていたことに整理ができましたので、自信をもって進められます。

●少し話に出ていましたが、複数の機関で課題が重なっているものもあったので、都度の質疑応答で扱うというより、いくつかテーマ設定をして深めるのもいいなと思いました。

●ありがとうございました。いつも励まされる場所です。

●他の機関の実践よりヒントを得られた。

| 12

今後も引き続き、ファシリテーターの学びの場と、FCPの向上の為にフォローアップミーティングの運営を継続していきます。 以上

2022年度 第4回ファシリテーターフォローアップミーティング 報告書

1. 開催日時 2023年1月24日(火) 9:30-16:00
2. 開催方法 オンライン (Zoom)
3. 出席者
 - a) スーパーバイザー：
松崎佳子先生(福岡市子ども家庭支援センター「SOS子どもの村」センター長・広島国際大学特任教授)
上鹿渡和宏先生(早稲田大学人間科学学術院教授・児童精神科医)
 - b) 運営：一般社団法人無憂樹 上村宏樹、松田咲子
 - c) 参加者：ファシリテーター23名(15機関)
4. 内容
 - 1) あいさつ
 - 2) 実施報告
 - 3) 進捗状況報告
 - 4) 質疑応答
 - 5) 事務局連絡・その他 閉会

5. まとめ

フォスタリングチェンジ・ジャパンは、フォスタリングチェンジ・プログラム(FCP)ファシリテーターのスキルの向上とクオリティの維持を目的とし、定期的にフォローアップ・ミーティングを開催しております。

2022年度4回目となる今回のフォローアップ・ミーティングには、第1回養成講座受講から第12回養成講座を受けられたファシリテーターの中から、23名のファシリテーターが参加され、9県(青森、栃木、千葉、神奈川、新潟、滋賀、京都、福岡、熊本)より、15機関から報告が行われました。その内「実施報告」が4機関、「状況報告」が6機関からの発表となりました。

今回の内容としては、なかなかコロナが収束しない環境において参加者人数が少ない中、FCP実施にあたり起きた問題点を中心に、里親さんが参加しやすい体制や仕組み、欠席後のアフターセッションについて等の工夫と課題があがった。特に、セッション途中での欠席者が出た場合の対策や各機関がなされている工夫を共有することは貴重な情報交換に繋がった様子。また、ご夫婦での参加の場合についての、ロールプレイ等での組み合わせ方についての情報交換もなされた、家庭訪問時からのファシリテーターによる観察力はとても重要であるとし、普段のご夫婦の関係性と子どもとの関わり方の情報収集を踏まえた上で、ファシリテーターが事前に話し合っていくことは大切であるとした。

今後、2023年度はコロナについての捉え方が変化していき、対策も緩和されて行くと予想される、そんな中、FCP実施を引き続き実施していくにあたり、これまでのファシリテーターの経験と困難から出た多様なアイデアと工夫は貴重であり、今後のFCPを支えるものになっていくと思慮する。

6. 参加者からの感想

- 他機関の実施の様子を写真などで見ることができ大変参考になりました。温かい雰囲気や伝わり、またやりたい・頑張ろうと思えました。また、先生方のコメントも一つ一つ勉強になりました。プログラム内容の勉強だけでなく、いろいろな機関や県・施設への働きかけも戦略的にやっていく必要があるのだと学びました。知恵を出しながら開拓していきたいと思えました。
- 今年度、初めてファシリテーターとしてプログラムを実施しました。今回の実施がどのようなものだったか、振り返る時間を作れたこと、皆様からご意見をいただいたこと、次につながるヒントをいただいたように感じ、満足しました。
- FCP実施に向けて、他機関でいろいろ取り組まれている工夫を聞くことができ、とても参考になりました。都道府県によって里親支援の組織（システム）が大きく違い、実施するにあたって、連携の利点や困難も聞くことも出来ました。
- まだまだ開催できる状況にはなっておりませんので... 不安が大きいです。他機関の実践発表（工夫した点が聞けること、実際の写真が見れることなど）は、取り入れたい点がたくさんあり参考になりました。自分の地域だけでどうやったら開催できるのか？と検討していても何も進まないの、先生方のご助言をいただき見通しができることも大変学びの場となりました。ありがとうございました。

2023年度 第5回ファシリテーターフォローアップミーティング

報告書

| 14

1. 開催日時 2023年6月12日(火) 13:30-17:00
2. 開催方法 オンライン (Zoom)
3. 出席者
 - a) スーパーバイザー：
松崎佳子先生（福岡市子ども家庭支援センター「SOS子どもの村」センター長・広島国際大学特任教授）
上鹿渡和宏先生（早稲田大学人間科学学術院教授・児童精神科医）
 - b) 運営：一般社団法人無憂樹 上村宏樹、松田咲子
 - c) 参加者：ファシリテーター10名（6機関）

4. 内容

- 1) あいさつ(自己紹介)
- 2) 実施報告
- 3) 状況報告
- 4) 質疑応答
- 5) 事務局連絡・その他 閉会

5. まとめ

2023年度、第1回目となる今回のフォローアップ・ミーティングには、第1回養成講座受講から第13回養成講座を受けられたファシリテーターの中から、10名のファシリテーターが参加され、7府県（・神奈川・福井・長野・三重・京都・鳥取・佐賀）より、7機関から報告が行われました。その内「実施報告」が1機関、「状況報告」が6機関からの発表となりました。

今回のフォローアップミーティングの内容としては、FCPを実施するにあたっての事前準備に関する質問と課題が多く取り上げられました。開催場所については、近年毎回同じ場所を借りる難しさ、おやつ代に関しての経費の課題、場所によっては減免のところも出てきており、今回の実施機関からの発表や先生方のコメントによる様々な実績に基づいた工夫点はとても参考になった様子でした。また、FCP実施のファシリテーターによる役割分担や、事前の打ち合わせは、しっかり時間をかけてやっておくことは重要で、行政機関や児童相談所、フォスター

ング機関との連携をどうするかによっても、やり易さは違ってくるとし、そこの繋がりや仕組み作りはとても貴重としました。

後半では、里親さんの不調の問題について触れ、先生方より里親さん側からの視点で今一度見直してみることで、お互いの捉え方が変わるし深まるとあり、参加者にとって大きな気づきと学びになった様子でした。

現在、今回の FCP ファシリテーターを含め 270 名程のファシリテーターがいらっしやいます。今後の見通しとして、FCP の実施数が年々回を増す機関と、実施がこれからの所とで差が出てくると思いますが、ベテランファシリテーターがフォローアップミーティングに参加し、実施報告を発表いただくことは重要で、これから実施を予定している参加者にとっては大きな活動力になっていると感じています。今後も信用信頼のある事務局である為に FCP の質の担保を守りつつ、より良い内容にしていく為のサポートを続けて行きたいと思っています。

◇ご参加者から事後のアンケートでご回答いただいたコメントを一部、以下に紹介する。

●他の機関の取組を聞く事が出来、参考になりました。また実践内容について上鹿渡先生や松崎先生からコメントをいただけたのがとても嬉しかったです。リクルートから登録、委託後の支援とつながっている事に、感慨深く思いました。

●他機関の取り組みが知れたこと。来年度の 12+ の実施に向けて、留意点や難しさを事前知ることができた。今年度まではコロナ禍で実践が難しい機関もあったと思うので、来年度以降のフォローアップミーティングでは他機関の実践について、もっと話を伺ってみたい。

●年間 1 回はこういった場でミーティングに参加したいです。刺激を受けました。

●コロナ禍で実践できない状況が続いていましたが、やっと動き出し、里親支援の一つとして FCP が重要視されてきているように感じました。これから始めようとしている皆さんもたくさんおられ、頑張っている状況に元気をいただきました。久々に、上鹿渡先生や松崎先生にお会いできてうれしかったです。

●皆さんの実践から、具体的にどのような方法で行うのが良いのか考えられました。まだまだ緊張と不安がありますが、他のファシリテーターの方と協力して、実施できればと思います。

●実際に実践されている機関からの具体的な話が聞けたこと。また、その成果についても知ることができたので、これから取り組むモチベーションに繋がった。アドバイスについても、内部の勉強会の取り組み方など具体的に伺うことが出来たこと。

今後も引き続き、ファシリテーターの学びの場と、FCPの向上の為にフォローアップミーティングの運営を継続していきます。

以上

2022年度 第6回ファシリテーターフォローアップミーティング
報告書

1. 開催日時 2022年9月11日(月) 13:30-17:00
2. 開催方法 オンライン (Zoom)
3. 出席者
 - a) スーパーバイザー：
松崎佳子先生 (福岡市子ども家庭支援センター「SOS子どもの村」センター長・広島国際大学特任教授)
上鹿渡和宏先生 (早稲田大学人間科学学術院教授・児童精神科医)
 - b) 運営：一般社団法人無憂樹 上村宏樹、松田咲子
 - c) 参加者：ファシリテーター8名 (7機関)

4. 内容

- 1) あいさつ(自己紹介)
- 2) 実施報告
- 3) 状況報告
- 4) 質疑応答
- 5) 事務局連絡・その他 閉会
【開催報告】FCP フォローアップ・ミーティング (2023年9月)

5. まとめ

フォスタリングチェンジ・ジャパンは、フォスタリングチェンジ・プログラム (FCP) ファシリテーターのスキルの向上とクオリティの維持を目的とし、定期的にフォローアップ・ミーティングを開催しております。

2023年度、第2回目となる今回のフォローアップ・ミーティングには、第1回養成講座受講から第14回養成講座を受けられたファシリテーターの中から、8名のファシリテーターが参加さ

れ、6 都県（・東京・富山・長野・福岡・大分・沖縄）より、7 機関から報告が行われました。その内「実施報告」が 1 機関、「状況報告」が 6 機関からの発表となりました。

今回のフォローアップミーティングの内容は、7 機関中 6 機関が状況報告での発表となり、これから FCP を実施する準備段階での不安な点や質問が多く取り上げられました。

特にプログラム中のファシリテーターの割り当ての人数体制については課題が多く上がり、機関によってファシリテーターの人数が限られているところもあれば、それなりに充実し人数が揃えられるところもあるなど、県や機関によってファシリテーター数に差が出てきている現状。ただ、里親さんと一緒に場を作っていく為にも、ガイドラインの人数体制 1-(3)に記載があるように（3 名以上のファシリテーターでローテーションを組んで実施する場合にも、プログラムの一連の流れと受講者それぞれの状況や特性などを把握しておく必要があることから、担当ファシリテーターは、全員原則として 12 回のプログラムに同席するものとする）これらを前提にプログラムを組んでいくことを重要とした。その他、ニュースレターの活用法や、行動表の使い方、ペアポ資料についてなど、細かい部分での質問も上がり、実施機関を参考にしながら先生方のアドバイスを元に、FCP の基本に基づいたやり方を再認識する機会となった。

また、お子さんの託児についても質問があがり、開催する曜日が平日か祝日かによって託児の必要性は変わるとし、機関によっては乳児院から託児のスタッフを補充することが可能などもあるが、ただ、平日の日中での開催が（学校や幼稚園があっている時間帯）し易さはあるとした。また、初年度の方で FCP を実施した機関からは、子どもの成長により、今後、養成講座 12+ のプログラムの必要性を感じている機関もあった。

現在、今回の FCP ファシリテーターを含め 293 名程のファシリテーターがいらっしゃいます。今後の見通しとして、初年度の方で FCP を実施した機関からの養成講座 12+ の需要が増えると考えられます、今年度は 2 月中旬での開催を予定しているので、早めの開催告知と受講漏れのないようサポートしていきたいと思います。

また、引き続き FCP の質の担保を守りつつ、ファシリテーターの皆様安心して FCP 事務局を頼っていただけるよう努めていきたいと思います。

参加者からの感想

- 具体的なアドバイスをいただけたため。
- FCP の振り返りと他事業所の関わるスタッフの心構えが良くわかった
- 皆さんの実践やお考えに触れることができ、非常に勉強になりました。
- 他機関の様子をうかがうことで、様々な工夫や実施のヒントをいただくことができたため。またセッション内容についても、毎回「このセッションの意図は」という軸を確認できることが

大変勉強になります。やり始めると参加者の反応から細かい部分で悩み始めるため、一歩引いて全体像を俯瞰できるのも有難かったです。

2022年度 コンサルテーションデイ

| 18

報告書

1. 開催日時 2022年7月28日(木) 17:00-20:00
2. 開催方法 オンライン (Zoom)
3. 出席者
 - a) 講師：
 - ・キャシー・ブラッケビー氏 (Kathy Blackeby) ※FCP 開発者
 - ・キャロライン・ベンゴ氏 (Caroline Bengo) ※FCP 開発者
 - b) スーパーバイザー：
 - ・松崎 佳子 先生
(福岡市子ども家庭支援センター「SOS子どもの村」センター長 広島国際大学 特任教授)
 - ・上鹿渡 和宏 先生
(早稲田大学 人間科学 学術院 教授 / 児童精神科医)
 - c) 通訳：徳永 祥子 様 立命館大学准教授 ソーシャルワーク/児童福祉学
 - d) 運営：一般社団法人無憂樹 上村 宏樹、松田咲子
 - e) 参加者：43名 (34機関)
4. 内容
 - 1) 開会 あいさつ
 - 2) テーマ「オンラインにおけるフォスタリングチェンジ・プログラム」
 - (1) 養成講座におけるオンライン版の内容について
イギリスでも養成講座がオンラインで行われるようになりました。
オンラインの内容や、留意点、説明などを話していただきます。
 - (2) フォスタリングチェンジ・プログラムのオンライン実施について
イギリスのウェールズなどでは、里親さんへ FCP をオンラインで実施しています。その実施内容やオンラインでの留意点などを話していただきます。
 - (3) 質疑応答
オンラインでの実施や、その他フォスタリングチェンジ・プログラムについての質疑応答 をします。
 - 3) 機関からの実施報告と質問
 - A、【実施報告】 (15分ずつ) 実施内容と質問

1. 養育家庭支援センターきらきら（FCPセッションの1、12以外）

特定非営利活動法人 優里の会

2. SOS子どもの村（合同アフターセッション）

B、【状況報告】（10分ずつ） 課題と質問

3. 児童養護施設ほうゆう・キッズホーム（オンラインでの座談会）

4. 光と緑の園 乳児院（フォローアップ）

5. こどもみらい横浜（対面実施）

4) 質疑応答

5) 事務局連絡・あいさつ 閉会

5. 実施のまとめ、及び総括

2018年までは、年に1回キャシー・キャロライン両氏を日本に招いて開催しましたが、2019年3月の開催は新型コロナウイルスの感染拡大により、開催を見送りました。2020年7月は、コロナ終息の見通しがたたなかった為、始めてオンラインでの開催を行いました。2021年度も収まらないコロナ蔓延状況を配慮し対面での開催を見送り、今回の2022年度、7月は、2回目のオンラインでの開催となりました。

1年振りの、オンラインでの今回の開催には、日本全国から43名のファシリテーターの方々が参加されました。

世界的に収まらないコロナの状況があるなか、オンラインでのFCP活動はイギリスでも行われており、今回の参加者にとっても大変、興味深いものとなった。

今回のコンサルテーションデイでは、FCP活動のオンラインでの開催にあたり、キャシー氏・キャロライン氏からイギリスでの実践内容と説明をしていただきました。その後、それぞれ実践にした機関から実施報告を発表していただき、その他の機関からも問題点や課題を質問していただきました。昨今、オンラインでのFCP開催が定着している中、キャシー氏・キャロライン氏からは、とても参考になるコメントや助言をいただきました。

オンラインで開催するにあたり、不安や懸念される点が出てくるので、その為にも準備を怠らないことは大切です。例えば、参加者がどんな環境で参加されているか、画面に映っていることなど考慮してプライバシーが保たれているのかなど、また、自分自身の経験からの目線も大切となります。その為にも、事前の実践練習や準備は鍵となり重要です。

私たちが開催するときはテクニカルチームがついており、メディア関係のサポートをする人、またFCPファシリテーターをサポートする人が付いている、ファシリテーターは参加者との関係性に集中して出来るように環境になっている、皆さんの組織ではそこまでの環境が整わない、難しいとあれば、ファシリテーター以外にもう一人か二人、技術系等のサポーターをしてくれる人を入れておき、役割分担を決めておくといいでしょう。また、ブレイクルーム等を活用する際には、事前のリスト作成で、なるべく参加者が多くの人と交流出来るようにしておくことも大切です。実践中はホワイトボードやパワーポイントの活用をし、また質問はクイズ式にして楽しめる雰囲気づくり、またアイスブレイクは簡単なものにするなど、画面上でいかに分かりやすくするかなどの工夫をすること。

参加者とのコミュニケーションで大事なものは、なるだけ名前呼びかけていくこと、また、静かな人には特に声をかけることを意識する、その他、休憩をこまめにとる工夫をするなどが大切です。このように全体を把握し勧めていく為にも、ファシリテーター、サポーターの役割分担の事前準備は、やはり重要だとコメントしました。



Zoom で参加した講師のキャシー・ブラッケビ氏（左）とキャロライン・ベンゴ氏（右）

。

参加者からの事後アンケートの一部を以下に掲載する。

- はじめて **Kathy** さんと **Caroline** さんにお会いでき、褒め方や声の掛け方、あたたかな雰囲気づくりなど参考になりました。また、アフターセッションについて振り返る機会となり、学び多い時間が作れたことがとても満足しました。
- オンラインでの講座について講師のアドバイス、実践報告が大変参考になりました。皆さんとても完成度が高く、講座開催に向けての配慮点等素晴らしいと思いました。アイスブレイキングの重要性、画面上でのコミュニケーションの工夫等ポイントよく理解できました。
- オンラインの **FCP** を実施する上での疑問点が解消できた。参考にできるところが沢山あった。
- 他機関の実践を含め、とても充実した内容であり、本県でオンライン研修を進めるにあたり非常に参考になりました。昨年度、急遽オンラインを活用せざるを得なくなったセッションもありましたが、計画的に実施する場合、事前に良く準備をすることや配慮すべき点等、深い学びの場となりました。
- キャシーとキャロラインに会えたこと。他県の取り組みを聞いたこと。自分たちが取り組もうとしていることと同じだったので良かったと思えた。貴重な機会をいただきありがとうございます。自分たちが悩みながら開催している中、他県も同じように取り組む、前を向いて進んでいる姿に、元気をもらえました！
私たちのところも感染対策を取りながら、お菓子と飲み物は個包装でラッピングして渡し、食べる時は黙食。喋る時はマスクをつけてという形で行っています。
また、3回開催しましたので、1回目と2回目の方については合同セッションを開催し、FCP からの横のつながりを作りたいと思いました。

2回目の方は Zoom 開催しています。それだけでも里親さんの満足度は高く、顔が見られて良かったという感想でした。3回目の方が来週で最終回を迎えます。それが終わりましたら、またフォローアップミーティングへ参加させていただきたいと思いました

- 今回2回目の参加です。年に1回の貴重な時間となり、仲間と課題や達成感を共有できること、また直接キャロライン先生、キャシー先生より助言を頂ける場があることに非常に感謝しています。
コロナ禍を理由に「できない」ではなく「できる」工夫を前向きに考えることで乗り越えられることを今回の大きな学びとなりました。
始終通訳をされておりました徳永先生にも感謝いたします